



Kofax TotalAgility

構成ユーティリティガイド

バージョン: 7.11.0

日付: 2022-12-30

KOFAX

© 2022 Kofax. All rights reserved.

Kofax is a trademark of Kofax, Inc., registered in the U.S. and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners. No part of this publication may be reproduced, stored, or transmitted in any form without the prior written permission of Kofax.

目次

序文.....	5
TotalAgility ドキュメント.....	5
完全なドキュメント セット.....	5
オフライン ドキュメント.....	8
トレーニング.....	11
Kofax 製品のヘルプの入手.....	11
構成ユーティリティ.....	12
構成ユーティリティの実行.....	13
構成ユーティリティをサイレント モードで実行する.....	15
現在のインストールの構成設定.....	16
オンプレミス.....	16
一般.....	16
Web.....	18
アプリ.....	21
Core Worker.....	22
エクスポート ワーカー.....	26
Transformation Server.....	27
ストリーミング.....	28
ジョブ スレッド プール.....	29
ライセンス.....	30
キャプチャ ストレージ.....	30
統合サービスのバインディング.....	32
オンプレミス マルチテナント.....	32
一般.....	32
TMS (テナント管理システム).....	35
Web.....	36
アプリ.....	39
Core Worker.....	40
ストリーミング.....	44
Transformation Server.....	44
ジョブ スレッド プール.....	46
ライセンス.....	46
キャプチャ ストレージ.....	47
統合サービスのバインディング.....	48

Transformation Server のみ.....	49
一般.....	49
Transformation Server.....	50
リアルタイム Transformation サービス.....	51
Transformation Server.....	51
統合サーバー.....	53
Web.....	53
Core Worker.....	54
ストリーミング.....	56
統合サービスのバインディング.....	56
レポートサーバー.....	57

序文

このガイドでは、構成ユーティリティを使用して、異なるタイプのインストールおよび展開のさまざまな構成ファイルの設定を更新する方法について説明します。

TotalAgility ドキュメント

オンラインで完全なドキュメント セットにアクセスするには、[Kofax TotalAgility Documentation](#) ページを参照してください。

製品のインストール済みバージョンのオンライン ヘルプを起動するには、アプリケーションの [ヘルプ] アイコンをクリックします。

i TotalAgility 7.11.0 を以前のバージョンからアップグレードするときに、Workspace ヘルプをオンラインで表示するには、[システム Workspace パッケージのインポート] チェック ボックスが選択されていることを確認してください。選択されていない場合は、TotalAgility Workspace パッケージから WorkspaceHeader フォームをインポートする必要があります。

Kofax TotalAgility ドキュメントには、オンラインおよび[オフライン モード](#)でアクセスできます。

完全なドキュメント セット

TotalAgility ドキュメントの完全なセットには、次の項目が含まれています。

ガイド/ヘルプ	説明
管理者ガイド	TotalAgility インストールの構成と保守を担当する管理者向けの情報を提供します。
API ドキュメント	非推奨のメソッドを除く対応 API の詳細、各サービスの対応メソッド一覧、必須フィールド、フィールドタイプ、列挙型を含むすべての入出力、メソッドに関する特別な情報、いくつかのコーディング例、使用される概念の背後にある詳細が含まれています。
アーキテクチャ ガイド	オンプレミス、オンプレミス マルチテナンシー、および Azure 環境へのさまざまな展開を含む、TotalAgility アーキテクチャの概要について説明します。
ベスト プラクティス ガイド	TotalAgility を使用する場合に、パフォーマンス、コスト、メンテナンス、可用性、およびセキュリティを改善するためベスト プラクティスについて説明します。

ガイド/ヘルプ	説明
構成ユーティリティ ガイド	構成ユーティリティを使用して、さまざまなインストールおよび展開の種類さまざまな構成ファイルの設定を更新する手順について説明します。
Designer ヘルプ	TotalAgility を使用した、ビジネス ジョブとケースの設計、リソースの割り当て、フォームの作成、外部アプリケーションとの結合などに関する詳細を提供します。
機能ガイド	TotalAgility の機能の概要を示します。
インストール ガイド	TotalAgility をインストールし、他の製品と統合する方法について説明します。
統合サーバー インストール ガイド	TotalAgility 統合サーバーをインストールし、他の製品と統合する方法について説明します。
オンプレミス マルチテナント インストール ガイド	TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムのインストールと構成について説明します。
前提条件ガイド	TotalAgility をインストールするためのシステム要件、前提条件ユーティリティの実行手順、さまざまなインストール タイプに応じたソフトウェア チェックリストが含まれています。
リリース ノート	TotalAgility 7.11.0 での新機能と拡張機能、および動作の変更に関する重要な詳細を含めます。また、このバージョンの TotalAgility の既知の問題と解決済みの問題も示します。
レポート テーブル	TotalAgility の Capture クライアント アクティビティに関連する情報を格納する Kofax Reporting データ ウェアハウスのディメンション テーブルとファクト テーブルについて説明します。
レポート ビュー	Kofax Reporting に用意されているサンプル ビューについて説明します。
Analytics の一覧表	Kofax Analytics for TotalAgility で使用される TotalAgility のテーブルとフィールドについて説明します。
テナント管理システム ヘルプ	TotalAgility オンプレミス マルチテナント システムを使用してテナントを作成および管理する方法について説明します。
テナント管理システム インストール ガイド	TotalAgility テナント管理システムのインストール手順を提供します。
TotalAgility アプリのヘルプ	<p>トレーニングをほとんど受けていない、またはまったく受けていないシチズン デベロッパーがワークフローを構成し、項目をキャプチャできるようにするための一連のアプリケーションが記載されています。TotalAgility Apps には、次のアプリケーションがカプセル化されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビジネス データ • Quick Capture • Quick Classification • Quick RPA • Quick Rules • Quick Skins • Quick Workflow

ガイド/ヘルプ	説明
Web Capture コントロール ヘルプ	Web Capture コントロールを使用した、複数ページのドキュメントの作成、新しいフォルダでの新しいドキュメントの作成、誤ってスキャンされたページの削除などに関する詳細を提供します。また、Web Capture コントロール ツールバーで使用可能なボタンについても説明します。
Workspace ヘルプ	TotalAgility を使用した、ビジネス ジョブとケースの設計、リソースの割り当て、フォームの作成、外部アプリケーションとの結合などに関する詳細を提供します。
その他のドキュメント	
キャプチャ クライアント	TotalAgility でキャプチャ アクティビティを使用するためのヘルプを提供します。
デバイス ヘルプ	TotalAgility に接続されたデバイスを管理するための詳細を提供します。
TotalAgility のエクスポート コネクタ	エクスポート コネクタを管理し、ドキュメント タイプのエクスポート コネクタを設定する手順について説明します。
KC/KTM Converter (KC/KTM コンバータ)	TotalAgility で使用できるように、Kofax Capture および Kofax Transformation Modules プロジェクトを正しい形式に変換する方法について説明します。
Kofax .NET Restful Web Service API for Device Client (デバイス クライアント用 Kofax .NET Restful Web サービス API)	デバイス クライアント用の Kofax .NET Restful Web サービス API のドキュメントを提供します。
Kofax .NET Legacy API for Device Client (デバイス クライアント用 Kofax .NET レガシー API)	Kofax デバイス クライアント用の .NET レガシー API のドキュメントを提供します。
Message Connector	Kofax Message Connector を構成して使用する方法について説明します。
MFP スタート バック スタート ガイド	TotalAgility を使用して MFP スタート バックをインポートして処理する方法について説明します。
MFP Administrator Guides (MFP 管理者ガイド)	TotalAgility で動作するように MFP デバイスを準備する方法を説明します。
MFP Web Services Connector SDK Developer's Guide (MFP Web サービス コネクタ SDK 開発者ガイド)	MFP Web Services Connector Software Developer Kit (SDK) を使用して入力を開発するための概要と手順を提供します。このガイドとともに、SDK は Web サービスのドキュメントを提供します。
Repository Browser	Repository Browser を使用して、一連のフォルダとドキュメントの抽出結果を表示する方法について説明します。
Search and Matching Server	リモート サイトにある大量のデータに対するさまざまな Kofax アプリケーションからの検索要求を処理する Kofax Search and Matching Server のドキュメントを提供します。
Transformation Designer	Transformation Designer を使用して、ドキュメントの処理に必要なすべての情報を含むプロジェクトを設定、保存、およびテストする方法について説明します。
Transformation Designer Scripting (Transformation Designer スクリプト)	WinWrap Basic Editor の概要と、利用可能なスクリプト イベントの概要を提供します。

ガイド/ヘルプ	説明
XDoc Browser	XDoc Browser (TotalAgility で使用されるドキュメント表現への直接アクセスを提供するプログラム) の使用に関するヘルプを提供します。XDoc Browser を使用すると、XDoc を開いて参照イメージとともに表示し、テスト、デモンストレーション、およびデバッグの目的で使用できます。

オフライン ドキュメント

オフラインのドキュメントが必要な場合は、[Kofax フルフィルメント サイト](#)からドキュメントをダウンロードできます。言語ごとに、個別のドキュメント パッケージを圧縮ファイルとしてダウンロードできます (英語は TotalAgility Documentation_7.11.0_EN.zip、フランス語は TotalAgility Documentation_7.11.0_FR.zip など)。

英語と日本語の .zip ファイルには、help と print の両方のフォルダが含まれています。print フォルダには、インストール ガイドや管理者ガイドなどの PDF ガイドが含まれています。他の言語の .zip ファイルには、限定されたローカライズされたファイルのセットが含まれています。

次の手順は、英語の TotalAgility ドキュメントにオフラインでアクセスする方法を示しています。

1. Kofax フルフィルメント サイトから、英語などの該当する言語の documentation.zip ファイルをダウンロードします。
2. 圧縮されたドキュメント ファイルの内容をローカル マシンに抽出します。
3. TotalAgility 製品インストール ファイルの Agility.Server.Web\Help フォルダ内に、目的の言語のフォルダを作成します。たとえば、英語版の TotalAgility ドキュメントにオフラインでアクセスするには、次のように EN フォルダを作成します。

i 分散環境では、Web サーバーでファイルをコピーし、アプリケーション サーバーおよび Web サーバーで Web.config の変更を適用します。

フォルダの内容をコピーします	内容をフォルダに貼り付けます
Designer	<pre>\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \TotalAgility_designer\EN</pre> <p>i TotalAgility インストーラによって、Help フォルダ内に TotalAgility_designer フォルダと API フォルダが作成されません。Workspace や TotalAgilityApps など、その他のフォルダを手動で作成してから、それぞれのフォルダに内容をコピーする必要があります。</p>
デバイス	<pre>\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\bin \Administrative\Help\Devices\EN</pre>
DocumentConverter	<pre>\\Kofax\Document Converter\web\en\WebHelp</pre>
ExportConnector	<pre>\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \ExportConnector_help\EN</pre>
KCKTM_Converter	<pre><%ProgramData%>\Kofax\Transformation\en_US\help \KCKTM_Converter</pre>
MessageConnector	<pre>\\Kofax\KIC-ED\MC\web\en\WebHelp</pre>

フォルダの内容をコピーします	内容をフォルダに貼り付けます
Repository Browser	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \RepositoryBrowser\EN
SDK_Documentation	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help\API \EN
TenantManagementSystem	\\TotalAgilityInstall \Agility.Server.Web.TenantManagement \TenantManagement\Help\TenantManagementSystem\EN
TotalAgilityApps	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \TotalAgilityApps\EN
TransformationDesigner	<%ProgramData%>\Kofax\Transformation\en_US\help \TransformationDesigner
WebCaptureControl	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \WebCaptureControl\EN
Workspace	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Help \Workspace\EN
XDocBrowser	<%ProgramData%>\Kofax\Transformation\en_US\help \XDocBrowser
CaptureClient 内のアクティビティ フォルダ 例: DocumentReviewActivity	\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\Forms \Controls\Capture\Help\DocumentReviewActivity\EN

4. インストール フォルダに移動します。

このヘルプを使用するには、	次の手順を実行します。
<ul style="list-style-type: none"> • TotalAgility Designer • デバイス • Transformation Designer • XDoc Browser • KC_KTM Converter 	<p>次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> a. テキスト エディタで、次の場所にある TotalAgility Web.config を開きます。 <code>\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web</code> b. <appSettings> セクションを見つけ、キー値から <code>http://docshield.kofax.com/KTA</code> を削除します。<add key="OnlineHelpURL" value="http://docshield.kofax.com/KTA"/>。
<p>TotalAgility Export Connector</p>	<ol style="list-style-type: none"> a. テキスト エディタで、次の場所にある Agility.Server.ExportConnector.exe.config を開きます。 <code>\\TotalAgilityInstall\Agility.Server.Web\bin</code> b. <appSettings> セクションを見つけ、キー値から <code>http://docshield.kofax.com/KTA</code> を削除します。<add key="OnlineHelpURL" value="http://docshield.kofax.com/KTA"/>。 または、構成ユーティリティ (TotalAgility 製品インストール ファイルの <code>\\TotalAgilityInstall\Utilities\ConfigurationUtility</code> から入手可能) を実行し、OnlinehelpURL 設定からオンライン ヘルプの URL を削除します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i Transformation Designer、XDoc Browser、KC_KTM コンバータのヘルプの場合は、TotalAgility が Transformation Designer にアクティブに接続されていることを確認します。TotalAgility を Transformation Designer に接続するには、Transformation Designer にログインして、[ファイル]> [接続] をクリックして接続パスを指定します。</p> </div>
<p>TotalAgility Message Connector</p>	<ol style="list-style-type: none"> a. テキスト エディタで、次の場所にある configuration.xml を開きます。 <code>\\Kofax\KIC-ED\MC\web</code> b. <OnlineHelp>1</OnlineHelp> セクションを見つけ、1 を 0 に置き換えます。
<p>TotalAgility ドキュメント コンバータ</p>	<ol style="list-style-type: none"> a. テキスト エディタで、次の場所にある configuration.xml を開きます。 <code>\\Kofax\Document Converter\web</code> b. <OnlineHelp>1</OnlineHelp> セクションを見つけ、1 を 0 に置き換えます。

5. 構成ファイルを保存して閉じます。
 [ヘルプ] アイコンをクリックすると、インストールされている製品のヘルプが起動されます。

トレーニング

Kofax は、製品を最大限に活用するために役立つクラスルーム トレーニングおよびオンライン トレーニングを提供しています。トレーニング コースとスケジュールの詳細については、Kofax の Web サイトにある [Kofax Education Portal](#) (Kofax エデュケーション ポータル) にアクセスしてください。

Kofax 製品のヘルプの入手

[[Kofax Knowledge Base \(Kofax ナレッジベース\)](#)] リポジトリにある記事の内容は定期的に更新され、Kofax 製品の最新情報について参照できます。製品に関してご不明の点がある場合は、Knowledge Base (ナレッジベース) で情報を検索することをお勧めします。

[Kofax Knowledge Base] にアクセスするには、次の手順を実行します。

1. [Kofax Web サイト](#) のホーム ページに移動して、[サポート] を選択します。
2. [サポート] ページが表示されたら、[カスタマーサポート] > [ナレッジベース] を選択します。

i [Kofax Knowledge Base] は Google Chrome、Mozilla Firefox または Microsoft Edge 向けに最適化されています。

[Kofax Knowledge Base] は以下の内容を提供します。

- 強力な検索機能で必要な情報をすぐに見つけることができます。
[**Search (検索)**] ボックスに目的の語句を入力し、検索アイコンをクリックしてください。
- 製品情報、構成の詳細、リリース情報などのドキュメント。
[Kofax Knowledge Base] のホームページをスクロールして、製品ファミリーを見つけます。目的の製品ファミリー名をクリックして、関連記事の一覧を表示します。一部の製品ファミリーの場合は、関連記事を表示するために Kofax Portal (Kofax ポータル) の有効なログイン情報を入力する必要があります。

ナレッジベースのホーム ページから、次の操作を実行できます。

- Kofax Community (Kofax コミュニティ) へのアクセス (全カスタマー)。
ページ上部の [**Community (コミュニティ)**] リンクをクリックします。
- Kofax Customer Portal (Kofax カスタマー ポータル) へのアクセス (一部のカスタマーのみ)。
ページ上部の [**Support (サポート)**] リンクをクリックします。[Customer & Partner Portals Overview (カスタマーとパートナー ポータル概要)] が表示されたら、[**Log in to the Customer Portal (カスタマー ポータルにログイン)**] をクリックします。
- Kofax Partner Portal (Kofax パートナー ポータル) へのアクセス (一部のパートナーのみ)。
ページ上部の [**Support**] リンクをクリックします。[Customer & Partner Portals Overview] が表示されたら、[**Log in to the Partner Portal (パートナー ポータルにログイン)**] をクリックします。
- Kofax サポート コミットメント、ライフサイクル ポリシー、電子フルフィルメントの詳細、セルフサービス ツールへのアクセス。
[**General Support (一般サポート)**] セクションに移動して、[**Support Details (サポートの詳細)**] をクリックし適切なタブを選択します。

構成ユーティリティ

TotalAgility 構成ユーティリティを使用すると、各ファイルを個別に更新する代わりに、複数の構成ファイルの設定を一度に変更または更新できます。このユーティリティは、インストール ファイルの次の場所にあります。...\\KofaxTotalAgility-7.11.0\Utilities\ConfigurationUtility

次のいずれかのモードでユーティリティを実行できます。

- [現在のインストールの構成]: このモードを使用して、TotalAgility の現在のインストールの構成設定を表示および/または変更します。外部ファイルに設定を保存することも、外部ファイルから設定をロードすることもできます。「[現在のインストールの構成設定](#)」を参照してください。
- **[Docker モード]:** このモードを使用して、コンテナの実行に使用できる Docker 設定ファイルを作成します。値を入力するか、外部ファイルから値をロードすることができます。

Docker モードで、データベース接続文字列、パスワードなどの機密情報を格納するために Kubernetes シークレットを使用している場合は、**[Kubernetes のサポート]** チェック ボックスをオンにします。たとえば、MainDBConnectionString のアプリケーション設定を Secret として使用する場合を考えてみます。Docker イメージをビルドして Kubernetes にデプロイする前に、シークレットに必要な変更を加える必要があります。(デフォルト: クリア)

現在のインストールのユーティリティを実行すると、展開の種類 (オンプレミス、オンプレミス マルチテナント、および統合サーバー) とインストールの種類 (Web、アプリケーション、および Web/アプリ一体型サーバー) に基づいて、さまざまなタブの下に設定が表示されます。次の構成ファイルが影響を受けません。

構成ファイル	場所
Web.config	..\\Agility.Server.Web
Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config	..\\CoreWorkerService
Kofax.CEBPM.CPU.Server.ServiceHost.exe.config	..\\Transformation Server
Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe.config	..\\Reporting
Agility.Server.StreamingService.exe.config	..\\Agility.Server.Web for a Web server ..\\CoreWorkerService for an Application server
Agility.Server.Core.ExportService.exe.config	..\\CoreWorkerService
Agility.Server.Core.Executor.exe.config	..\\CoreWorkerService ..\\Agility.Server.Web ..\\Reporting ..\\Transformation Server

ユーティリティを Docker モードで実行すると、設定が変更された DockerSettings.env ファイルが生成されます。

IP アドレスを使用する SQL Server Management Studio を使用して、データベースがセットアップされたデータベース サーバーにリモートで接続できるかどうかを確認することをお勧めします。これにより、Docker コンテナが問題なくデータベース サーバーに接続されていることが確認されます。構成ユーティリティを実行するユーザーには、構成ファイル上の読み取りおよび書き込み権限と、TotalAgility データベース (オンプレミス環境用) およびマスター テナント データベース (オンプレミス マルチテナント環境用) へのアクセス権が必要です。



- 通常、マシン名は Docker コンテナ内で解決できないため、データベース サーバーには IP アドレスを使用することをお勧めします。
- ファイアウォールは、SQL Server へのリモート アクセスを許可する必要があります。
- ユーザーは Windows 認証なしでもアクセスできるため、混合モードでのリモート アクセスを許可するように SQL Server を構成します。
- 分割データベースを使用するには、メイン データベースと終了済みジョブのデータベースが同じデータベースを指し、同じデータベース サーバーに存在するようにします。これは、Microsoft が現在 Docker コンテナで MSDTC をサポートしていないためです。
- マシン名が必要な場合は、コンテナのマシン名を使用します。たとえば、以下の docker run コマンドでは、「container1」はコンテナのマシン名です。

```
docker run -it --hostname "container1" --env-file "C:\Docker\TotalAgility\dockersettings.env" -p 5000:80 kofaxop
```
- 名前付きパイプ プロトコルが機能しないため、SQL Server の TCP/IP プロトコルを有効にします。

構成ユーティリティの実行

1. TotalAgility インストール ファイルの TotalAgility\Utilities\ConfigurationUtility に移動します。



構成ユーティリティを Docker モードで実行する場合、ユーティリティはその場所から実行されるため、インストール フォルダの構造を変更しないことをお勧めします。

2. KTAConfigurationUtility.exe を実行します。
[設定エディタ ツール] ダイアログ ボックスが表示されます。

3. 次のいずれかを実行します。

オプション	説明
<p>現在の TotalAgility のインストールの構成設定を表示または変更します。</p>	<p>a. [現在のインストールの構成] (デフォルト) を選択します。</p> <p>b. [OK] をクリックします。 プロンプトで、サービスを自動的に停止するかどうかを確認します。</p> <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>i 設定を変更する場合は、サービスを自動的に停止するように選択することをお勧めします。設定を表示するだけの場合は、サービスを停止する必要はありません。</p> </div> <p>[構成] ウィンドウには、展開のタイプとインストールのタイプに基づいてタブごとにグループ化された設定が表示されます。</p> <p>c. [一般] タブには、複数の構成ファイルに共通の設定が表示されます。各タブをクリックし、必要に応じて変更を加えます。 または、既存のファイルから変更した設定を読み込むには、[テキスト ファイルからロード] を選択して、構成の変更がすでに行われているテキスト ファイルを選択します。</p> <p>d. 新しい構成設定をテキスト ファイルに保存し、必要なときに再利用するには、[テキスト ファイルに保存] をクリックします。</p> <p>e. [保存] をクリックします。 変更された設定を使用して構成ファイルが更新されます。 エラーを報告するログ ファイルが生成されます (エラーがある場合)。</p> <p>f. 更新された変更は、サービスが再起動されたときにのみ有効になります。プロンプトで [はい] をクリックして、サービスの自動再起動を確認します。</p>
<p>Docker モードでユーティリティを実行して、コンテナの実行に使用できる Docker 設定ファイルを作成します。</p>	<p>a. [Docker モード] を選択します。</p> <p>b. [OK] をクリックします。 [構成] ウィンドウには、Docker コンテナ タイプに基づいたタブごとにグループ化された設定が表示されます。デフォルトでは、完全インストール タイプの設定が表示されます。</p> <p>c. [Docker コンテナ タイプ] リストで、コンテナ タイプを選択します。利用可能なコンテナ タイプは、[完全インストール] (デフォルト)、[Web]、[Web およびアプリ]、[アプリ]、[RTTS]、[レポート]、[Transformation Server]、[ライセンス] です。 選択した Docker コンテナ タイプに基づいて、さまざまなタブに構成設定とデフォルト値が適宜表示されます。ただし、設定値は必要に応じて変更できます。</p> <p>d. [一般] タブには、複数の構成ファイルに共通の設定が表示されます。各タブをクリックし、必要に応じて構成設定に変更を加えます。 または、既存のファイルから変更した設定を読み込むには、[テキスト ファイルからロード] を選択して、構成の変更がすでに行われているテキスト ファイルを選択します。</p> <p>e. 新しい構成設定をテキスト ファイルに保存し、再利用するには、[テキスト ファイルに保存] をクリックします。</p> <p>f. [Docker 設定の保存] をクリックします。 DockerSettings.env ファイルは、変更された設定を使用して正常に生成されます。 エラーを報告するログ ファイルが生成されます (エラーがある場合)。</p>

構成ユーティリティをサイレント モードで実行する

構成ユーティリティは、Docker または非 Docker モードでサイレント モードで実行することができます。これにより、同じ構成を、同じ構成設定がある TotalAgility サーバーの複数のインスタンスに自動的に適用できます。たとえば、TotalAgility が展開された環境で、同じ構成設定を共有する複数の Core Worker サーバーがある場合があります。このような場合、サイレント モード構成を使用することで、同様な構成ファイルに構成を自動的に適用できます。

1. コマンド プロンプトで、コマンド ラインを KTAConfigurationUtility.exe ファイルのルート ディレクトリに変更します。
2. 次のいずれかを実行します。
 - 非 Docker モードの場合は、KTAConfigurationUtility.exe `"/Silent" "[テキスト ファイル パス]/ConfigSettings_OnPremise_FullInstall.txt" "false"` を実行します。この場合、ConfigSettings_OnPremise_FullInstall.txt は構成設定を含むテキスト ファイルです。
 - Docker モードの場合は、KTAConfigurationUtility.exe `"/Silent" "[テキスト ファイル パス]/ConfigSettings_OnPremise_FullInstall.txt" "true"` を実行します。この場合、ConfigSettings_OnPremise_FullInstall.txt は構成設定を含むテキスト ファイルです。

構成ユーティリティが自動的に実行され、非 Docker モードのテキスト ファイルの設定に従って構成設定が更新されます。Docker モードでは、テキスト ファイルで指定された設定で DockerSettings.env ファイルが生成されます。

エラーを報告するログ ファイルが生成されます (エラーがある場合)。

現在のインストールの構成設定

このセクションでは、さまざまな展開およびインストール タイプの構成設定について説明します。

次の構成設定を参照してください。

- [オンプレミス設定](#)
- [オンプレミス マルチテナント設定](#)
- [Transformation Server のみの設定](#)
- [リアルタイム Transformation サービスの設定](#)
- [統合サーバーの設定](#)
- [レポートサーバーのインストール](#)

オンプレミス

このセクションでは、TotalAgility オンプレミスの展開タイプの構成設定について説明します。

一般

このタブには、TotalAgility オンプレミス インストール向けにインストールされているデータベースが表示されます。これらの設定は、Web サーバー、アプリケーション サーバー、Web/アプリ一体型サーバーのインストール タイプに対して表示されます。

ラベル	構成設定	説明
[メイン]	MainDBConnectionString	<p>TotalAgility データベース サーバーのメイン データベース接続文字列を指定します。</p> <p>各データベースにデータベース サーバーを指定する場合は、次の手順を実行します。データベース名を変更します。[サーバー] の省略記号をクリックし、使用可能なサーバーのリストからインストールする SQL サーバーのデータベース サーバーを選択します。[セキュリティ] グループの [認証] リストで、データベース サーバー モードが [SQL Server (SSL 不使用)] の場合は [Windows 認証] または [SQL Server 認証] を使用し、データベース サーバー モードが [SQL Azure] の場合は [SQL Server 認証]/[Azure Active Directory - パスワード] を使用します。[SQL Server 認証] と [Azure Active Directory - パスワード] オプションのユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。</p> <p>i Docker モードでデータベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指定します。Docker ではマシン名がサポートされないため、Docker モードの場合はデータベース サーバーの IP アドレスを指定します。</p> <p>これをすべてのデータベースに対して実行します。</p>
[監査]	AuditDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーの監査データベース接続文字列を指定します。
[終了済みジョブ]	ArchiveDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのアーカイブ データベース接続文字列を指定します。
[データ レイヤー]	<p>メイン データベースのテーブル SERVER_DATA から読み取ります。</p> <p>i メイン データベースの詳細情報を誤って入力した場合、またはメイン データベースにアクセスできない場合は、構成ツールの実行元でエラーが発生します。</p>	TotalAgility データベース サーバーのデータ レイヤー データベース接続文字列を指定します。

ラベル	構成設定	説明
[レポート]	ReportingMainDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのレポート データベース接続文字列を指定します。
[ステージング]	ReportingStagingDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのレポート ステージング データベース接続文字列を指定します。

インストールのタイプに基づいて、設定の変更は次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config
- Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config
- Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config
- Agility.Server.Core.ExportService.exe.config

ドキュメント データベースの値は、SERVER_DATA.CEBPM_SETTINGS 列内で保持されます。

Web

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス Web サーバーおよび Web/アプリー体型サーバーのインストール タイプのみです。

ラベル	構成設定	説明
[コア サービスの場所]	CoreServicesLocation	<p>コア サービスの場所を指定します。</p> <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i この設定を使用できるのは、Web サーバーのインストールのみです。 SSL を有効にしている場合は、HTTPS コア サービスの場所を入力します。</p> </div> <p>「コア サービスの場所の構成に関する追加情報」を参照してください コア サービスの場所の構成に関する追加情報</p>

ラベル	構成設定	説明
[クロス オリジン リソース共有]	CorsAllowedOrigins	<p>クロス オリジン リソース共有の実行を許可されたドメインを指定します。</p> <p>たとえば、2つのドメインがある場合に、アプリケーション サーバー上の Kofax TotalAgility SDK API へのアクセスを許可するには、次のように設定を構成します。</p> <pre><add key="CorsAllowedOrigins" value="http://sub-domain1.sub-domain2.domain1.com,http://domain2"/></pre> <p>すべてのドメインにアクセスを許可するには、次のように設定を構成します。</p> <pre><add key="CorsAllowedOrigins" value="*" /></pre> <p>i 「値 = ""」の設定は、CORS が有効になっていないことを意味します。</p>
[オンライン ヘルプの URL]	OnlineHelpURL	TotalAgility オンライン ヘルプの場所を指定します。
[展開されたフォームの縮小]	MinifyDeployedForms	Form Designer によって展開された JavaScript ファイルを縮小するかどうかを指定します。
[アンチ CSRF ターゲット ホスト名]	TargetHostName	<p>Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲット名 (Web サーバーの FQDN) を指定します。この名前は、TotalAgility Web サーバーのホスト/ドメイン名である必要があります。</p> <p>i ホスト名は、ブラウザの URL で指定されたものと同じホスト/ドメインである必要があります。</p>
[アンチ CSRF ターゲット ポート番号]	TargetPortNo	<p>Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲット ポート番号 (Web サイトのポート番号) を指定します。これは、TotalAgility Web サーバーのポート番号である必要があります。ポート番号を指定するのは、ブラウザの URL で必要な場合のみです。</p> <p>i ポートは、ブラウザの URL と同じポート番号が必要です。</p>

ラベル	構成設定	説明
[Cookie にホスト プレフィックスを使用する]	UseHostPrefixforCookies	「Cookie のホスト プレフィックス」を有効にします。このブラウザ機能を使用すると、TotalAgility Cookie 名の前に "_HOST-" を付加して、Cookie のセキュリティを高めることができます。Cookie 名がこのフラグで始まる場合、サポート ブラウザの Cookie に対して追加のブラウザ ポリシーがトリガーされます。Host というプレフィックスがついた Cookie は、これが設定されている同じドメインからのみアクセスできます。つまり、サブドメインでは Cookie 値を上書きできなくなります。また、HTTPS サイトからのみ Cookie にアクセスできるようになります。これにより、攻撃者が安全ではない偽装サイトを使用してセキュアな Cookie を上書きした場合でも、Cookie が保護されます。
[KCM サーバー URL]	CCMServerURL	KCM (Kofax Communication Manager) サーバーの URL を次の形式で入力します。 http(s)://<CCMServer>:<Portnum> KCM サーバーの IP アドレスとポート番号を指定します。
[KCM プロキシ URL]	CCMProxyURL	KCM サーバーと通信するために KCM コントロールが使用する KCM プロキシの場所を指定します。
[リプレイ保護を有効にする]	EnableReplayProtection	HTTP リクエストごとの検証を有効にして、リプレイ攻撃を防ぎます。(デフォルト: クリア)
[インバウンド認証] <ul style="list-style-type: none"> • 手動ログオンを使用する HTTP • 手動ログオンを使用する HTTPS • Windows 認証を使用する HTTP • Windows 認証を使用する HTTPS • 手動および Windows 認証を使用する HTTP • 手動および Windows 認証を使用する HTTPS 	<p>「system.serviceModel/bindings」の「security」セクションを参照してください。</p> <p>サーバーの認証モードを指定します。</p> <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>i</p> <ul style="list-style-type: none"> • 認証モードを HTTP から HTTPS またはその逆に変更する前に、IIS で SSL を有効にする必要があります。そうしないと、サーバーが保護されていないままになる可能性があります。また、coreserviceslocation および Streaming サービスのベース アドレスを更新する必要があります。 • 手動および Windows 認証タイプを使用するには、IIS で匿名認証モードと Windows 認証モードの両方を有効にする必要があります。 • 認証タイプを手動および Windows 認証に変更すると、Windows 認証が失敗した場合に手動ログインにリダイレクトされます。 • 選択したインバウンド認証に基づいて、[ストリーミング] タブのストリーミング サービス URL に HTTP/HTTPS を指定します。 </div>	

ラベル	構成設定	説明
[アウトバウンド認証] <ul style="list-style-type: none"> • 手動ログオンを使用する HTTP • 手動ログオンを使用する HTTPS • Windows 認証を使用する HTTP • Windows 認証を使用する HTTPS 	「system.serviceModel/bindings」の「security」セクションを参照してください。	Web サーバーとアプリ サーバー間の通信を指定します。この設定により、TotalAgility Web およびストリーミング サービス構成ファイル内の関連するコアサービスのバインドが更新されます。この設定を使用できるのは、Web サーバーです。 アウトバウンド認証として HTTP を選択すると、Web タブの コア サービスの場所の URL でも HTTP を選択する必要があり、その逆も同様です。

設定の変更は、次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config

コア サービスの場所の構成に関する追加情報

非 Docker モードでは、Web サーバーでコア サービスの場所を構成するときに、以下の例に示すようにインストール中に場所を設定します。

- **非 SSL の場合:** `http://[アプリ サーバー コンピュータ名]/[TotalAgility Web サイト名]/services/core`
- **SSL の場合:** `https://[アプリ サーバー コンピュータ名]/[TotalAgility Web サイト名]/services/core`

Docker モードでは、構成ユーティリティを使用して、ホストマシン名とアプリケーション サーバーのコンテナ ポート番号を指定することにより、場所を設定できます。そうすることで、アプリ コンテナの IP アドレスが変更された場合に、アプリ コンテナまたは Web コンテナのホスト ファイルまたは DNS エントリを更新する必要がなくなります。例:

- **非 SSL の場合:** `http://[アプリ サーバー ホスト コンピュータ名]:5000/[TotalAgility Web サイト名]/services/core`
5000 はアプリケーション サーバー コンテナのポート番号。
- **SSL の場合:** `https://[アプリ サーバー ホスト コンピュータ名]:5000/[TotalAgility Web サイト名]/services/core`
5000 はアプリケーション サーバー コンテナのポート番号。

アプリサーバー名は Web サーバー上で解決する必要があります。これらのサーバーが同じドメインにある場合、この処理は自動的に行われます。必要に応じて、Web サーバー上のホスト ファイルを更新するか、DNS サーバーを使用して、この処理を手動で行うことができます。

- 非 Docker モードの場合は、アプリケーション サーバー名の IP アドレスを追加します。
- Docker モードの場合は、ホストマシン名の IP アドレスを追加します。

アプリ

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ一体型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[Transformation Server ポート]	TSExternalServicePortForSyncProcessing	この設定は、ローカルな Transformation Server インスタンスにアクセスするためのポート番号を指定します。(デフォルト値: 9001)
[発信 HTTP 接続制限]	OutgoingHttpConnectionLimit	この設定により、発信 HTTP リクエストに RPA 統合を使用する場合の、ターゲット RPA サーバーへの発信 HTTP 接続の数を指定します。
[インバウンド認証] <ul style="list-style-type: none"> • 手動ログオンを使用する HTTP • 手動ログオンを使用する HTTPS • Windows 認証を使用する HTTP • Windows 認証を使用する HTTPS 	「system.serviceModel/bindings」の「security」セクションを参照してください。	Web サーバーとアプリ サーバー間の通信を指定します。この設定により、TotalAgility Web.config およびストリーミング サービス構成ファイル内の関連するコア サービスのバインドが更新されます。この設定を使用できるのは、Web サーバーのみです。 [ストリーミング] タブで、選択した受信認証に基づいて HTTP または HTTPS でストリーミング サービス URL を指定します。
[ロギングの有効化] <ul style="list-style-type: none"> • ロギングなし • I/O を含むロギング • I/O を含まないロギング 	EnableLogging	この設定により、Unity のロギングが有効になり、TotalAgility で Unity の依存関係エラーを診断することでエラー レポートが改善されます。デフォルトでは、Unity 依存関係のエラーに対して生成されるログ ファイルはなく、ログ ファイルのパスはデフォルトで現在のフォルダになります。 ただし、入力と出力を使用して、または使用せずにログ ファイルを生成することを選択できます。

設定の変更は、次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config
- Agility.Server.Core.ExportService.exe.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config
- Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe.config

Core Worker

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ一体型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[ワーカー タスクのポーリング 間隔]	CoreWorkerIntervalInSeconds	システムが期限内のメモリ内のワーカー タスクをチェックする頻度を指定します。

ラベル	構成設定	説明
[データベース ワーカー タスクのポーリング間隔]	CoreWorkerDBIntervalInSeconds	システムが適切なデータベース ワーカー タスクをポーリングする頻度を指定します。
[ワーカー タスクのタイムアウト間隔]	CoreWorkerResetTaskIntervalInSeconds	システムがタイムアウトしたワーカー タスクをチェックする頻度を指定します。 デフォルトでは、ワーカー タスクごとに割り当てられるタイムアウト間隔は 300 秒です。
[ポーリング タイムアウト アクティビティのリセット間隔]	CoreWorkerResetActivityIntervalInSeconds	Core Worker がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。
[アクティビティのタイムアウト間隔]	CoreWorkerActivityTimeoutIntervalInMinutes	アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されません。
[インポートするメッセージ/ドキュメントの最大数]	MaximumNumberOfMessagesToImport	ドキュメントの取り込み用にインポートするドキュメントまたはメッセージの最大数を指定します。
[最大作業キュー タスク サイズ]	CoreWorkerWorkQueueSize	Core Worker が取得できるタスクの最大数を指定します。
[最大ジョブ評価のタスク サイズ]	MaximumNumberOfEvaluateJobTasksToTake	取得するジョブ評価タスクの最大数を指定します。
[アクティビティの順序]	CoreWorkerActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限 優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[ロックする最大アクティビティ数]	MaximumNumberOfActivitiesToLock	Core Worker が自動アクティビティの実行をポーリングするときにロックする自動アクティビティの数を指定します。 デフォルト値は 32 です。

ラベル	構成設定	説明
[Import Connector 名]	ImportConnectorName	管理者は、Core Worker が使用するインポート接続を明示的に指定できます。(デフォルト: すべて) この設定は、複数の Core Worker が設定されている場合に便利です。
[パフォーマンス ログイングが有効]	PerformanceLoggingEnabled	ログ ファイルにログインするパフォーマンス カウンターを有効にします。 パフォーマンス監視カウンターの詳細については、次のガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 『Kofax TotalAgility 管理者ガイド』のパフォーマンス カウンターの使用方法に関するセクション。 『Kofax TotalAgility インストール ガイド』のパフォーマンス監視カウンターの追加に関するセクション。
[スレッド プール モニタリング 間隔]	CoreWorkerThreadPoolMonitoringIntervalInSeconds	スレッド プールが内部スレッドを監視する頻度を定義します。現在、監視はスレッドのタイムアウトをチェックするために行われ、自動アクティビティ タイプのスレッドプールにのみ適用されます。 デフォルト値は 60 です。
[アーカイブ ジョブとワーカー タスクの取得]	ArchiveDeleteWorkerTasksToRetrieve	実行のために取得する、アーカイブ ジョブと DeleteItem 非システムレベルのワーカー タスクの数を指定します。 デフォルト値は 50 です。
[アーカイブ ジョブとワーカー タスクの再試行-秒間隔]	ArchiveDeleteRetryIntervalInSeconds	アーカイブ ジョブおよび DeleteItem 非システムレベルワーカー タスクを実行する次の期日を計算するための最大期間を秒単位で指定します。 デフォルト値は 0 です。
[自動アクティビティ プール ID]	AutoActivitiesPoolId	この設定は、自動アクティビティのスレッド プール ID を指定します。
[自動アクティビティ プール 名]	AutoActivitiesPoolName	この設定は、自動アクティビティのスレッド プール名を指定します。

ラベル	構成設定	説明
[ジョブ スレッドプール サイズのアップグレード]	UpgradeJobsThreadPoolSize	この設定は、アップグレードジョブのスレッドプールのサイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。
[リプレイ保護を有効にする]	EnableReplayProtection	この設定により、HTTP リクエストごとの検証が有効になり、リプレイ攻撃を防ぐことができます。(デフォルト: クリア)
[リクエスト トークンのタイムアウト間隔 (分単位)]	RequestTokenTimeoutIntervalInMinutes	この設定により、リプレイ保護に使用される、参照されていないリクエスト トークンをクリアする間隔を指定します。
[発信 HTTP 接続制限]	OutgoingHttpConnectionLimit	この設定により、発信 HTTP リクエストに RPA 統合を使用する場合の、ターゲット RPA サーバーへの発信 HTTP 接続の数を指定します。
[ロギングの有効化] <ul style="list-style-type: none"> • ロギングなし • I/O を含むロギング • I/O を含まないロギング 	EnableLogging	この設定により、Unity のロギングが有効になり、TotalAgility で Unity の依存関係エラーを診断することでエラーレポートが改善されます。デフォルトでは、Unity 依存関係のエラーに対して生成されるログ ファイルはなく、ログ ファイルのパスはデフォルトで現在のフォルダになります。ただし、入力と出力を使用して、または使用せずにログ ファイルを生成することを選択できます。
[自動アクティビティ スレッドプール サイズ]	CoreWorkerMaxAutoActivityThreadPoolSize	この設定は、自動アクティビティスレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。
[ジョブ スレッドプール サイズ]	CoreWorkerMaxJobThreadPoolSize	この設定は、ジョブ スレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。

ラベル	構成設定	説明
[プロセス アクティビティ スレッドプール サイズ]	CoreWorkerMaxProcessActivitiesThreadPoolSize	この設定は、プロセス アクティビティ スレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。

設定の変更は `Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config` にのみ適用されます。

エクスポート ワーカー

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ一体型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[アクティビティの順序]	CoreWorkerActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[ポーリング タイムアウト アクティビティのリセット間隔]	CoreWorkerResetActivityIntervalInSeconds	Core Worker がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。
[アクティビティのタイムアウト間隔]	CoreWorkerActivityTimeoutIntervalInMinutes	アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されます。
[パフォーマンス ログギングが有効]	PerformanceLoggingEnabled	ログ ファイルにログインするパフォーマンス カウンターを有効にします。パフォーマンス監視カウンターの詳細については、次のガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 『Kofax TotalAgility 管理者ガイド』のパフォーマンス カウンターの使用方法に関するセクション。 • 『Kofax TotalAgility インストールガイド』のパフォーマンス監視カウンターの追加に関するセクション。

設定の変更は、次の構成ファイルに適用されます。

- Agility.Server.Web\bin\Agility.Server.ExportConnector.exe.config
- CoreWorkerService\Agility.Server.Core.ExportWorker.Host.exe.config

Transformation Server

Transformation Server は、TotalAgility をインストールするときにインストールできます。また、Transformation Server を別途インストールすることもできます。TotalAgility のインストール時にリアルタイム Transformation サービス モードを選択した場合、Transformation Server を別のモードでインストールすることもできます。

このタブを使用できるのは、Transformation Server アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ一体型サーバーのインストール環境用に TotalAgility をインストールするときに TotalAgility をインストールする場合のみです。

Transformation Server を個別にインストールする場合、構成設定を変更するには、「[Transformation Server のみ](#)」を参照してください。

TotalAgility をリアルタイム Transformation サービス モードでインストールするように選択した場合、構成設定を変更するには、「[リアルタイム Transformation サービス](#)」を参照してください。

ラベル	構成設定	説明
[プール名]	PoolName	Transformation Server が処理する場合の元になるプールを指定します。
[スロットの最大数]	MaxProcessingSlotsNumber	アイドル状態のバックグラウンド プロセスを除いて、同時に実行できる CPU 集約型のバックグラウンド プロセスの数を指定します。(デフォルト: 0) 処理スロットの最大数は、次の式を使用して決定されます。 $(\text{int})\text{Math}.\text{Round}(\text{Environment}.\text{ProcessorCount} * 1.25)$
[アクティビティの順序]	TransformationServiceActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[予約済みスロットの数]	ReservedSlotsNumber	プッシュされた優先度の高いアクティビティ (同期呼び出しなど) 用に予約されている Transformation Server のスロットの数を入力します。

ラベル	構成設定	説明
[TCP/IP ポート番号]	次のセクションのベースアドレスのポート番号を参照します。 <code>system.serviceModel/services/service/host/baseAddresses</code>	Transformation サービスのベースアドレスのポート番号を指定します。 Transformation Server のポート番号を入力します。
[アクティビティのタイムアウト間隔 (分単位)]	<code>ResetActivitesIntervalMinutes</code>	この設定は、アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されます。
[ポーリング タイムアウトアクティビティのリセット間隔 (分単位)]	<code>TakenActivitiesResetTimeoutInMinutes</code>	この設定は、Transformation Server がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。
[オンライン ラーニングの有効化]	<code>OnlineLearningExecutionEnabled</code>	選択した場合、この Transformation Server インスタンスのオンライン ラーニング タスクの処理が有効になります。
[同期アクティビティの処理を有効化]	<code>EnableSynchronousCalls</code>	選択した場合、同期「プッシュ」呼び出しの処理が有効になります。
[同期アクティビティのみを処理]	<code>SynchronousOnlyProcessing</code>	選択した場合、Transformation Server は同期キャプチャ プロセスにのみ使用され、自動アクティビティをポーリングしないように指定されます。

設定の変更は、`Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config` にのみ適用されます。

ストリーミング

このタブは TotalAgility オンプレミス アプリケーション サーバー、Web サーバー、および Web/アプリ一体型サーバーのインストール タイプに利用できます。

ラベル	構成設定	説明
[ベース アドレス]	次のセクションの下の <code>baseAddress</code> を参照してください。 <code>system.serviceModel/services/service/host/baseAddresses</code> 。	Streaming サービスのベースアドレスを次の形式で入力します。 <code>http(s)://<Server>:<Portnum></code> サーバーの FQDN とポート番号を指定します。
[ロギングの有効化] • ロギングなし • I/O を含むロギング • I/O を含まないロギング	<code>EnableLogging</code>	この設定により、Unity のロギングが有効になり、TotalAgility で Unity の依存関係エラーを診断することでエラー レポートが改善されます。デフォルトでは、Unity 依存関係のエラーに対して生成されるログ ファイルはなく、ログ ファイルのパスはデフォルトで現在のフォルダになります。ただし、入力と出力を使用して、または使用せずにログ ファイルを生成することを選択できます。

ラベル	構成設定	説明
[パッケージ コンテンツの最大サイズ (MB)]	PackageContentSize	インポートできるファイルの最大サイズ。ファイルのサイズが設定された制限を超える場合、エラーが表示され、システムはそれらのファイルのインポートを制限します。(デフォルト: 2000)

設定の変更は `Agility.Server.StreamingService.exe.config` にのみ適用されます。

ジョブ スレッド プール

ジョブ スレッドでは、ジョブの評価、例外ジョブの生成、Kofax インポート コネクタによる取り込みなど、複数の操作が一度に実行されます。複数の操作は、運用システムにボトルネックを引き起こす可能性があります。たとえば、アーカイブするジョブが数千ある場合、ジョブ スレッドがジョブのアーカイブでビジーになるため、取り込みとジョブの評価に時間がかかります。カスタム ジョブ スレッド プールを追加すると、スループットの向上とバックグラウンド タスクの優先順位付けに役立ちます。

カスタム ジョブ スレッド プールを追加し、スレッド プール内のスレッドの数を指定し、ワーカー タスクをスレッド プールに割り当てることができます。

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ 体型サーバーのインストール環境のみです。

ラベル	構成設定	説明
[ID]	Id	スレッドプールの ID を入力します。
[サイズ]	サイズ	スレッドプールのサイズを入力します。
[追加]	該当なし	[追加] をクリックして、新しいスレッド プールを追加します。
[更新]	該当なし	[更新] をクリックして、選択したスレッド プールを更新します。
[削除]	該当なし	[削除] をクリックして、選択したスレッド プールを削除します。
タスク: 次のワーカー タスクをスレッド プールに割り当てます。		
[ジョブ アーカイブのタスク]	WorkerTasks	ジョブの完了後にジョブをアーカイブするには、[ジョブ アーカイブのタスク] をスレッド プールに割り当てます。
[ジョブ評価のタスク]	WorkerTasks	ジョブを評価するには、[ジョブ評価のタスク] をスレッド プールに割り当てます。
[例外作成のタスク]	WorkerTasks	例外ジョブを発生させるには、[例外作成のタスク] をスレッド プールに割り当てます。
[ジョブ作成のタスク]	WorkerTasks	受信したドキュメントに関連付けられたジョブを作成するには、[ジョブ作成のタスク] をスレッド プールに割り当てます。
[システム取り込みのタスク]	WorkerTasks	Ingest システム タスクを実行するには、[システム取り込みのタスク] をスレッド プールに割り当てます。

ラベル	構成設定	説明
[バッチキャプチャ のタスク]	WorkerTasks	タイムアウトしたキャプチャ アクティビティ セッションをアンロードするには、[バッチキャプチャ のタスク] をスレッド プールに割り当てます。
[項目削除のタスク]	WorkerTasks	保持ポリシーに基づいて項目を削除するには、[項目削除のタスク] をスレッド プールに割り当てます。
[状態アクション処理のタスク]	WorkerTasks	ジョブの状態の変更に対するアクションを処理するには、[状態アクション処理のタスク] をスレッド プールに割り当てます。
[ジョブ 強制終了のタスク]	WorkerTasks	ジョブの完了後にジョブを強制終了するには、[ジョブ 強制終了のタスク] をスレッド プールに割り当てます。
[キャプチャ バイナリ削除のタスク]	WorkerTasks	キャプチャ バイナリデータを削除するには、[キャプチャ バイナリ削除のタスク] をスレッド プールに割り当てます。
[一時停止アクティブ化のタスク]	WorkerTasks	一時停止されたジョブを一時停止の理由に基づいてアクティブ化するには、[一時停止アクティブ化のタスク] をスレッド プールに割り当てます。

設定の変更は `Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config` にのみ適用されます。

ライセンス

ラベル	構成設定	説明
[プライマリ]	ServerID	設定値が 1 の場合は、プライマリ ライセンス サーバーを指定します。
[バックアップ]	ServerID	設定値が 2 の場合は、バックアップ ライセンス サーバーを指定します。

キャプチャ ストレージ

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス Web/アプリ型サーバーのインストール環境のみです。

TotalAgility のインストール時、[キャプチャ ストレージ] タブに次のストレージ タイプが表示されます。

- **[SQL Server]**
- **[SQL Server とファイル システム]**
- **[Windows Azure Blob ストレージ]**
- **[Amazon S3]**

TotalAgility をインストールした後はキャプチャ データのストレージ タイプを変更できないため、ストレージ タイプは読み取り専用モードで表示されます。接続文字列とキーのみを変更できます。デフォルトでは、キャプチャ データは SQL Server に保存されます。TotalAgility 7.11.0 へのアップグレード時には、デフォルトのストレージを Windows Azure、Amazon、または [SQL Server とファイル システム] ストレージ タイプに変更できます。ストレージ タイプを変更した後は、ストレージ タイプを元に戻したり、再び変更したりすることはできません。

TotalAgility のインストール時、必要に応じて、ストレージ タイプについて、クラウド アカウント設定を変更できます。TotalAgility のアップグレード時には、クラウド アカウント設定を構成する必要があります。

i クラウド ストレージの認証情報を変更する前に、すべての Kofax TotalAgility サーバーですべての TotalAgility サービスを停止し、変更後にサービスを再起動する必要があります。

クラウド アカウント設定については、次の表を参照してください。

ラベル	構成設定	説明
[SQL Server]	ServerID	デフォルトでは、キャプチャ データは SQL Server に保存されます。
[SQL Server とファイル システム]: 次の [ファイル ストレージ設定] を構成します。		
[キャプチャ バイナリを保存する SQL Server ファイル グループを選択します]	ServerID	キャプチャ バイナリを格納する SQL Server ファイルグループ。
[キャプチャ ストレージ ファイル サイズのしきい値 (キロバイト)]	ServerID	キロバイト単位のキャプチャ ストレージ ファイル サイズのしきい値。(デフォルト: 512)
[キャプチャ プロジェクト トレーニング セットを保存する SQL Server ファイル グループを選択]	ServerID	キャプチャ プロジェクトのトレーニング セットを保存する SQL Server ファイル グループ。
[キャプチャ プロジェクトの最大 サイズ]	MaxCaptureProjectSize	MB 単位で許容されるキャプチャ プロジェクト サイズの最大サイズ。トレーニング セットの場合、500 から 10240 の間である必要があります。
[長いデータベース トランザクション タイムアウト間隔]	LongDatabaseTransactionTime outInSeconds	大規模なプロジェクト トレーニング セットを保存するために、より長い トランザクション タイムアウトを設定できるようにするキー。
Windows Azure Blob ストレージ		
[アカウント 接続文字列]	ServerID	Blob ストレージ サービスに接続するための接続文字列。
[コンテナ名]	ServerID	ストレージ サービスのコンテナ名。 i コンテナ名は変更できません。
Amazon S3		
[アクセス キー]	ServerID	クラウド ストレージに設定されたアクセス キー。
[秘密キー]	ServerID	クラウド ストレージのシークレット アクセス キー。
[領域]	ServerID	S3 リージョン システム名。

ラベル	構成設定	説明
[バケット名]	ServerID	クラウドストレージユニット。  バケット名は変更できません。

統合サービスのバインディング

このタブを利用できるのは、Docker コンテナ タイプが完全インストール、Web とアプリ、アプリの場合に対応する Docker モードのみです。

デフォルトでは、このタブのすべての設定が選択されているわけではありません。このタブを使用して、次の統合サービス バインディングに対して SSL を有効にします。

ラベル	構成設定	説明
[Exchange 通知サービス]	BasicHttpBinding_Exchange NotificationService	Exchange 通知サービスに対して SSL を有効にします。
[SharePoint コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_SharePoint CommunicatorService	SharePoint コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[TRIM コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_TRIM CommunicatorService	TRIM コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[Dynamics AX コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX CommunicatorService	DynamicsAX コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[Dynamics AX 統合サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX IntegrationService	DynamicsAX 統合サービスに対して SSL を有効にします。
[Insight データ サービス]	BasicHttpBinding_InsightData サービス	Insight データ サービスに対して SSL を有効にします。

設定の変更は、TotalAgility Web.config に適用されます。

オンプレミス マルチテナント

このセクションでは、TotalAgility オンプレミスのマルチテナント展開タイプの構成設定について説明します。

一般

このタブには、TotalAgility オンプレミス マルチテナント インストール向けにインストールされているデータベースが表示されます。これらの構成設定は、Web サーバー、アプリケーション サーバー、Web/アプリ型サーバーのインストール タイプに対して表示されます。

ラベル	構成設定	説明
[テナント]	MainDBConnectionString	<p>テナント データベース名を指定します。</p> <p>i データベース サーバーに接続するには、SQL Server 認証を使用する必要があります。</p> <p>ユーザー名とパスワードは、テナント管理システムで利用可能なテナント接続文字列を使用して更新する必要があります。テナントのユーザー名には、デフォルトで「live」または「dev」が追加されます (例: <tenant1_live/dev>)。</p>
[データ センター]	TenantDBConnectionString	<p>TotalAgility データベース サーバー向けのデータ センター データベース接続文字列を指定します。</p> <p>i データベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指名します。Docker ではマシン名がサポートされないため、Docker モードの場合はデータベースサーバーの IP アドレスを指定します。</p>
[展開タイプ]	DeploymentType	<p>ライブや開発など、セットアップする環境のモードを指定します。</p>
[ライブ ホスト名]	TotalAgilityHostNameLive	<p>TotalAgility 本番環境向けのホスト名を指定します。</p> <p>i TotalAgility オンプレミス マルチテナントがテナント管理システムとともにインストールされている場合、ライブ ホスト名はマスター テナント データベースに対してのみ更新されます。それ以外の場合、本番ホスト名は Web.config に対して更新されます。</p> <p>「ホスト名 live およびホスト名 div に関する追加情報」を参照してください</p>

ラベル	構成設定	説明
[開発ホスト名]	TotalAgilityHostNameDev	TotalAgility 開発環境向けのホスト名を指定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i TotalAgility オンプレミス マルチテナントがテナント管理システムとともにインストールされている場合、開発ホスト名はマスター テナント データベースに対してのみ更新されます。それ以外の場合、開発ホスト名は Web.config に更新されます。</p> </div> <p>「ホスト名 live およびホスト名 div に関する追加情報」を参照してください</p>
[マルチテナント パフォーマンス カウンタ]	PerformanceCountersMultitenanted	各テナントにマルチテナント パフォーマンス カウンタ インスタンスを作成できるかどうかを指定します。

テナント データベースは、次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config
- Kofax.CEBPM.CPUService.ServiceHost.exe.config
- Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config
- Agility.Server.Core.ExportService.exe.config
- Agility.Server.Core.Executor.exe.config

ホスト名は、次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config

ホスト名 live およびホスト名 div に関する追加情報

非 Docker モードで、LiveHostName および DevHostName を使用して TotalAgility にアクセスする場合、名前の形式は `hostname: port number` にする必要があります。

ホスト名: ロードバランサと公開 DNS を使用している場合、ホスト名のテキストには `cta.app.com` などの公開 DNS を指定する必要があります。それ以外の場合、ホスト名は TotalAgility Web サーバーがインストールされているマシンのホスト名になります。

ポート番号:

- TotalAgility が非標準の TCP ポートにインストールされている場合は、ポート番号を使用します。
- TotalAgility がデフォルトのポートにインストールされている場合、ポート番号は無視できます。

Docker モードで、LiveHostName および DevHostName を使用して TotalAgility コンテナにアクセスする場合、テキストの形式は次のようにします。 `host name : any TCP port number open for`

the incoming connection on the host machine。ホスト名を取得するには、次の手順を実行します。

1. [ホスト名] で、コマンドプロンプトに移動します。
2. ホスト名を入力します。
コマンドは、「MyHostMachine」などのホスト名を返します。

ポート番号を取得するには、着信接続が許可されている TCP ポート番号を使用します。ただし、コンテナの作成中は、ポート転送に同じポート番号を使用してください。たとえば、ライブ ホスト名\開発ホスト名を MyHostMachine :5000 として指定した場合、run コマンドでスイッチ -p を使用して、ポート 5000 でポート転送を実行する必要があります。docker run --env-file "DockerSettings.env" -p 5000:443 -it kofax/ kta_771.

ロードバランサと公開 DNS を使用している場合、ホスト名のテキストに kta.app.com などの公開 DNS 名を指定する必要があります。

TMS (テナント管理システム)

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス マルチテナント アプリケーション サーバーと Web/アプリ一体型サーバーのインストール タイプのみです。

ラベル	設定	説明
[マスター テナント]	MasterTenantDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのマスターテナント データベース接続文字列を指定します。  データベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指名します。
[送信メール サーバー]	SendMailServer	SMTP サーバーの電子メールを指定します。
[送信メール ユーザー名]	SendMailUserName	メール サーバーのユーザー名を指定します。
[送信メール パスワード]	SendMailPassword	メール サーバーのパスワードを指定します。
[送信メール 送信元アドレス]	SendMailFromAddress	メール サーバーからの送信者のアドレスを指定します。
[送信メール BCC リスト]	SendMailBCCList	メール サーバーからの非表示の受信者アドレスを指定します。
[送信メール SSL の有効化]	SendMailEnableSSL	メール サーバーで SSL を有効にするか無効にするかを指定します。
[国際文字のサポートを送る]	SendMailSupportInternationalCharacters	電子メール サーバーで国際文字をサポートするかどうかを指定します。
[アンチ CSRF ターゲットホスト名]	TargetHostName	Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲット名 (Web サーバーの FQDN) を指定します。名前は、TotalAgility Web サーバーのホスト/ドメイン名にする必要があり、ブラウザの URL で指定されたホスト/ドメインと一致する必要があります。

ラベル	設定	説明
[アンチ CSRF ターゲット ポート番号]	TargetPortNo	Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲット ポート番号 (Web サイトのポート番号) を指定します。ポートは、TotalAgility Web サーバーのポート番号であり、ブラウザの URL で指定されたポートと一致する必要があります。ここでポート番号を指定するのは、ブラウザの URL で必要な場合のみです。
[Cookie にホスト プレフィックスを使用する]	UseHostPrefixforCookies	「Cookie のホスト プレフィックス」を有効にします。このブラウザ機能を使用すると、TotalAgility Cookie 名の前に "_HOST-" を付加して、Cookie のセキュリティを高めることができます。Cookie 名がこのフラグで始まる場合、サポート ブラウザの Cookie に対して追加のブラウザ ポリシーがトリガーされます。Host というプレフィックスがついた Cookie は、これが設定されている同じドメインからのみアクセスできます。つまり、サブドメインでは Cookie 値を上書きできなくなります。また、HTTPS サイトからのみ Cookie にアクセスできるようになります。これにより、攻撃者が安全ではない偽装サイトを使用してセキュアな Cookie を上書きした場合でも、Cookie が保護されます。

設定の変更は、次の構成ファイルに適用されます。

- Agility.Server.Web\Web.config
- Agility.Server.Web.TenantManagement\Web.config

Web

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス マルチテナント Web サーバーおよび Web/アプリ一体型サーバーのインストール タイプのみです。

ラベル	構成設定	説明
[コア サービスの場所]	CoreServicesLocation	<p>コア サービスの場所を指定します。</p> <p>i この設定を使用できるのは、Web サーバーのインストールのみです。SSL を有効にしている場合は、HTTPS コア サービスの場所を入力します。</p> <p>「コア サービスの場所の構成に関する追加情報」を参照してください</p>

ラベル	構成設定	説明
[クロス オリジン リソース共有]	CorsAllowedOrigins	<p>クロス オリジン リソース共有の実行を許可されたドメインを指定します。</p> <p>たとえば、2つのドメインがある場合に、アプリケーション サーバー上の Kofax TotalAgility SDK API へのアクセスを許可するには、次のように設定を構成します。</p> <pre><add key="CorsAllowedOrigins" value="http://sub-domain1.sub-domain2.domain1.com,http://domain2"/></pre> <p>すべてのドメインにアクセスを許可するには、次のように設定を構成します。</p> <pre><add key="CorsAllowedOrigins" value="*" /></pre> <p>i 「値 = ""」の設定は、CORS が有効になっていないことを意味します。</p>
[オンライン ヘルプの URL]	OnlineHelpURL	TotalAgility オンライン ヘルプの場所を指定します。
[展開されたフォームの縮小]	MinifyDeployedForms	Form Designer によって展開された JavaScript ファイルを縮小するかどうかを指定します。
[アンチ CSRF ターゲット ホスト名]	TargetHostName	Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲット名 (Web サーバーの FQDN) を指定します。名前は、TotalAgility Web サーバーのホスト/ドメイン名にする必要があり、ブラウザの URL で指定されたホスト/ドメインと一致する必要があります。
[アンチ CSRF ターゲット ポート番号]	TargetPortNo	Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲットポート番号 (Web サイトのポート番号) を指定します。ポートは、TotalAgility Web サーバーのポート番号であり、ブラウザの URL で指定されたポートと一致する必要があります。ここでポート番号を指定するのは、ブラウザの URL で必要な場合のみです。
[KCM サーバー URL]	CCMServerURL	<p>KCM (Kofax Communication Manager) サーバーの URL を指定します。</p> <p>KCM サーバー URL を次の形式で入力します。http(s)://<CCMServer>:<Portnum>。</p> <p>KCM サーバーの IP アドレスとポート番号を指定します。</p> <p>i この設定を使用できるのは、Web サーバーのインストールのみです。</p>

ラベル	構成設定	説明
[KCM プロキシ URL]	CCMProxyURL	KCM コントロールが KCM サーバーと通信するために使用する KCM (Kofax Communication Manager) プロキシの場所を指定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i この設定を使用できるのは、Web サーバーのインストールのみです。</p> </div>
[リプレイ保護を有効にする]	EnableReplayProtection	HTTP リクエストごとの検証を有効にして、リプレイ攻撃を防ぎます。(デフォルト: クリア)
[Cookie にホストプレフィックスを使用する]	UseHostPrefixforCookies	「Cookie のホストプレフィックス」を有効にします。このブラウザ機能を使用すると、TotalAgility Cookie 名の前に "_HOST-" を付加して、Cookie のセキュリティを高めることができます。Cookie 名がこのフラグで始まる場合、サポートブラウザの Cookie に対して追加のブラウザポリシーがトリガーされます。Host というプレフィックスがついた Cookie は、これが設定されている同じドメインからのみアクセスできます。つまり、サブドメインでは Cookie 値を上書きできなくなります。また、HTTPS サイトからのみ Cookie にアクセスできるようになります。これにより、攻撃者が安全ではない偽装サイトを使用してセキュアな Cookie を上書きした場合でも、Cookie が保護されます。

設定の変更は、次の構成ファイルに適用されます。

- Web.config
- Agility.Server.StreamingService.exe.config

コア サービスの場所の構成に関する追加情報

オンプレミスのマルチテナント展開の場合、実行時に、以下の例に示すように、テナント名がコア サービスの場所に動的に追加されます。

- **非 Docker**
 - **非 SSL:** `http://[テナント名.アプリ サーバー コンピュータ名]/[TotalAgility Web サイト名]/services/core`
 - **SSL:** `https://[テナント名.アプリ サーバー コンピュータ名]/[TotalAgility Web サイト名]/services/core`
- **Docker**
 - **非 SSL:** `http://[テナント名.アプリ サーバー ホスト コンピュータ名]:5000/[TotalAgility Web サイト名]/services/core`
5000 はアプリケーション サーバー コンテナのポート番号。
 - **SSL:** `https://[テナント名.アプリ サーバー ホスト コンピュータ名]:5000/[TotalAgility Web サイト名]/services/core`
5000 はアプリケーション サーバー コンテナのポート番号。

Kofax TotalAgility はアプリケーション サーバーと Web サーバーの両方で {TenantName.AppServerName} を解決する必要があります。Web/アプリ サーバー上のホスト ファイルまたは DNS エントリを更新します。ワイルドカード DNS を使用することをお勧めします。

- 非 Docker モードの場合、アプリケーション サーバーの IP アドレスを追加します。
- Docker モードの場合、TenantName.HostMachineName の IP アドレスをコンテナに追加します。

i コア サービスの場所では、アプリケーション サーバーの IP アドレスではなくマシン名を指定する必要があります。マシン IP は、オンプレミスのマルチテナント展開では機能しません。Kofax TotalAgility は {TenantName.MachineIP} ではなく、「本番/開発ホスト名」の設定を介して App/Web サーバー上の {TenantName.MachineName} を解決します。

アプリ

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス マルチテナント アプリケーション サーバーと Web/アプリ型サーバーのインストール タイプのみです。

ラベル	構成設定	説明
[Transformation Server ポート]	TSExternalServicePortForSyncProcessing	この設定は、ローカルな Transformation Server インスタンスにアクセスするためのポート番号を指定します。 デフォルト値は 9001 です。
[KCM サーバー URL]	CCMServerURL	この設定は KCM (Kofax Communication Manager) サーバーの URL を指定します。 KCM サーバー URL を次の形式で入力します。http(s)://<CCMServer>:<Portnum>。 KCM サーバーの IP アドレスとポート番号を指定します。
[KCM プロキシ URL]	CCMProxyURL	KCM コントロールが KCM サーバーと通信するために使用する KCM (Kofax Communication Manager) プロキシの場所を指定します。
[テナント アクティベーション間隔 (秒単位)]	TenantActivationIntervalInSeconds	この設定は、テナントがアクセス不能であると判定されたときにシステムによって使用される再試行間の時間間隔を指定します。最大再試行回数に達してもテナントにアクセスできない場合、テナントは非アクティブになります。最大再試行回数に達する前にテナントがアクセス可能と判定された場合、テナントは再びアクティブになります。 デフォルトのテナント アクティベーション間隔は 30 秒です。

ラベル	構成設定	説明
[テナント アクティベーションの再試行回数]	TenantActivationRetryCount	この設定は、テナントがアクセス不能であると判定されたときにシステムによって使用される再試行の最大数を指定します。最大再試行回数に達してもテナントにアクセスできない場合、テナントは非アクティブになります。最大再試行回数に達する前にテナントがアクセス可能と判定された場合、テナントは再びアクティブになります。 デフォルトの再試行回数は 5 回です。
[発信 HTTP 接続制限]	Outgoinghttpconnectionlimit	この設定により、発信 HTTP リクエストに RPA 統合を使用する場合の、ターゲット RPA サーバーへの発信 HTTP 接続の数を指定します。
[ロギングの有効化] • ロギングなし • I/O を含むロギング • I/O を含まないロギング	EnableLogging	この設定により、Unity のロギングが有効になり、TotalAgility で Unity の依存関係エラーを診断することでエラー レポートが改善されます。デフォルトでは、Unity 依存関係のエラーに対して生成されるログ ファイルはなく、ログ ファイルのパスはデフォルトで現在のフォルダになります。ただし、入力と出力を使用して、または使用せずにログ ファイルを生成することを選択できます。

設定の変更は `Agility.Server.Web\Web.config` にのみ適用されます。

Core Worker

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス マルチテナント アプリケーション サーバーと Web/アプリ一体型サーバーのインストール タイプのみです。

ラベル	構成設定	説明
[自動アクティビティ スレッドプール サイズ]	CoreWorkerMaxAutoActivityThreadPoolSize	自動アクティビティ スレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。
[ジョブ スレッドプール サイズ]	CoreWorkerMaxJobThreadPoolSize	ジョブ スレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。
[プロセス アクティビティ スレッドプール サイズ]	CoreWorkerMaxProcessActivitiesThreadPoolSize	プロセス アクティビティ スレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。

ラベル	構成設定	説明
[ワーカー タスクのポーリング間隔]	CoreWorkerIntervalInSeconds	システムが期限内のメモリ内のワーカー タスクをチェックする頻度を指定します。
[ワーカー タスクのタイムアウト間隔]	CoreWorkerResetTaskIntervalInSeconds	システムがタイムアウトしたワーカー タスクをチェックする頻度を指定します。 デフォルトでは、ワーカー タスクごとに割り当てられるタイムアウト間隔は 300 秒です。
[ポーリング タイムアウト アクティビティのリセット間隔]	CoreWorkerResetActivityIntervalInSeconds	Core Worker がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。 デフォルトでは、ワーカー タスクごとに割り当てられるリセット アクティビティ間隔は 300 秒です。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i Azure 環境の場合、ワーカー タスクごとに割り当てられるデフォルトのリセット アクティビティ間隔は 900 秒です。TotalAgility Designer でプロセス内のアクティビティの想定期間を設定することにより、テナントは引き続きデフォルト値を上書きできます。詳細については、『TotalAgility Designer のヘルプ』を参照してください。</p> </div>
[アクティビティのタイムアウト間隔]	CoreWorkerActivityTimeoutIntervalMinutes	アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティがタイムアウトしたとき、アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されます。
[インポートするメッセージ/ドキュメントの最大数]	MaximumNumberofMessagesToImport	ドキュメントの取り込み用にインポートするドキュメントまたはメッセージの最大数を指定します。
[最大作業キュー タスクサイズ]	CoreWorkerWorkQueueSize	Core Worker が取得できるタスクの最大数を指定します。
[最大ジョブ評価のタスクサイズ]	MaximumNumberofEvaluateJobTasksToTake	取得するジョブ評価タスクの最大数を指定します。

ラベル	構成設定	説明
[アクティビティの順序]	CoreWorkerActivityOrder	<p>処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[パフォーマンス ログ ングが有効]	PerformanceLoggingEnabled	<p>ログ ファイルにログインするパフォーマンス カウンターを有効にします。</p> <p>パフォーマンス監視カウンターの詳細については、次のガイドを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 『Kofax TotalAgility 管理者ガイド』のパフォーマンスカウンターの使用方法に関するセクション。 • 『Kofax TotalAgility インストールガイド』のパフォーマンス監視カウンターの追加に関するセクション。
[スレッド プール モニ タリング間隔]	CoreWorkerThreadPoolMonitoringInterval InS econds	<p>スレッド プールが内部スレッドを監視する頻度を定義します。現在、監視はスレッドのタイムアウトをチェックするために行われ、自動アクティビティタイプのスレッド プールにのみ適用されます。</p> <p>デフォルト値は 60 です。</p>
[自動アクティビティ プール ID]	AutoActivitiesPoolId	この設定は、自動アクティビティのスレッド プール ID を指定します。
[自動アクティビティ プール名]	AutoActivitiesPoolName	この設定は、自動アクティビティのスレッド プール名を指定します。
[ジョブ スレッド プー ル サイズのアップグ レード]	UpgradeJobsThreadPoolSize	この設定は、アップグレード ジョブのスレッド プールのサイズを指定します。スレッド プールのサイズがいったいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。

ラベル	構成設定	説明
[テナント アクティベーション間隔 (秒単位)]	TenantActivationIntervalInSeconds	この設定は、テナントがアクセス不能であると判定されたときにシステムによって使用される再試行間の時間間隔を指定します。最大再試行回数に達してもテナントにアクセスできない場合、テナントは非アクティブになります。最大再試行回数に達する前にテナントがアクセス可能と判定された場合、テナントは再びアクティブになります。 デフォルトのテナント アクティベーション間隔は 30 秒です。
[テナント アクティベーションの再試行回数]	TenantActivationRetryCount	この設定は、テナントがアクセス不能であると判定されたときにシステムによって使用される再試行の最大数を指定します。最大再試行回数に達してもテナントにアクセスできない場合、テナントは非アクティブになります。最大再試行回数に達する前にテナントがアクセス可能と判定された場合、テナントは再びアクティブになります。 デフォルトの再試行回数は 5 回です。
[リプレイ保護を有効にする]	EnableReplayProtection	この設定により、HTTP リクエストごとの検証が有効になり、リプレイ攻撃を防ぐことができます。(デフォルト: クリア)
[リクエスト トークンのタイムアウト間隔 (分単位)]	RequestTokenTimeoutIntervalInMinutes	この設定により、リプレイ保護に使用される、参照されていないリクエスト トークンをクリアする間隔を指定します。
[発信 HTTP 接続制限]	OutgoingHttpConnectionLimit	この設定により、発信 HTTP リクエストに RPA 統合を使用する場合の、ターゲット RPA サーバーへの発信 HTTP 接続の数を指定します。
[ロギングの有効化] • ロギングなし • I/O を含むロギング • I/O を含まないロギング	EnableLogging	この設定により、Unity のロギングが有効になり、TotalAgility で Unity の依存関係エラーを診断することでエラーレポートが改善されます。デフォルトでは、Unity 依存関係のエラーに対して生成されるログ ファイルはなく、ログ ファイルのパスはデフォルトで現在のフォルダになります。ただし、入力と出力を使用して、または使用せずにログ ファイルを生成することを選択できます。

設定の変更は `Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config` にのみ適用されます。

ストリーミング

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス マルチテナント アプリケーション サーバーと Web/アプリ型サーバーのインストール タイプのみです。

ラベル	構成設定	説明
[ベース アドレス]	セクション system.serviceModel/ services/service/host/ baseAddresses の baseAddress を参照します。	Streaming サービスのベース アドレスを次の形式で入力します。 http(s)://<Server>:<Portnum> サーバーの FQDN とポート番号を指定します。
[ロギングの有効化] • ロギングなし • I/O を含むロギング • I/O を含まないロギング	EnableLogging	この設定により、Unity のロギングが有効になり、TotalAgility で Unity の依存関係エラーを診断することでエラーレポートが改善されます。デフォルトでは、Unity 依存関係のエラーに対して生成されるログファイルはなく、ログファイルのパスはデフォルトで現在のフォルダになります。ただし、入力と出力を使用して、または使用せずにログ ファイルを生成することを選択できます。
[パッケージ コンテンツの最大サイズ (MB)]	PackageContentSize	インポートできるファイルの最大サイズ。ファイルのサイズが設定された制限を超える場合、エラーが表示され、システムはそれらのファイルのインポートを制限します。

設定の変更は Agility.Server.StreamingService.exe.config にのみ適用されます。

Transformation Server

Transformation Server は、TotalAgility をインストールするときにインストールできます。また、Transformation Server を別途インストールすることもできます。このタブを使用できるのは、TotalAgility アプリケーション サーバーおよび Web/アプリ型サーバーのインストール タイプに Transformation Server をインストールする場合のみです。

Transformation Server を個別にインストールした場合は、「[Transformation Server のみ](#)」を参照してください。

ラベル	構成設定	説明
[プール名]	PoolName	Transformation Server が処理する場合の元になるプールを指定します。

ラベル	構成設定	説明
[スロットの最大数]	MaxProcessingSlotsNumber	アイドル状態のバックグラウンドプロセスを除いて、同時に実行できる CPU 集約型のバックグラウンドプロセスの数を指定します。(デフォルト:0) 処理スロットの最大数は、次の式を使用して決定されます。 <code>(int)Math.Round(Environment.ProcessorCount * 1.25)</code>
[アクティビティの順序]	TransformationServiceActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[予約済みスロットの数]	ReservedSlotsNumber	プッシュされた優先度の高いアクティビティ (同期呼び出しなど) 用に予約されている Transformation Server のスロットの数を入力します。
[TCP/IP ポート番号]	次のセクションの baseAddress のポート番号を参照します。system.serviceModel/services/service/host/baseAddresses	Transformation サービスのベースアドレスのポート番号を指定します。 Transformation Server のポート番号を入力します。
[アクティビティのタイムアウト間隔 (分単位)]	TakenActivitiesResetTimeoutInMinutes	アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されます。
[ポーリング タイムアウトアクティビティのリセット間隔 (分単位)]	ResetActivitesIntervalMinutes	Transformation Server がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。
[オンライン ラーニングの有効化]	OnlineLearningExecutionEnabled	選択した場合、この Transformation Server インスタンスのオンライン ラーニング タスクの処理が有効になります。
[同期アクティビティの処理を有効化]	EnableSynchronousCalls	選択した場合、同期「プッシュ」呼び出しの処理が有効になります。
[同期アクティビティのみを処理]	SynchronousOnlyProcessing	選択した場合、Transformation Server は同期キャプチャプロセスにのみ使用され、自動アクティビティをポーリングしないように指定されます。

設定の変更は `Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config` にのみ適用されます。

ジョブ スレッド プール

カスタム ジョブ スレッド プールを追加し、スレッド プール内のスレッドの数を指定し、ワーカー タスクをスレッド プールに割り当てることができます。

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス マルチテナント アプリケーション サーバーと Web/アプリ型サーバーのインストール タイプのみです。

ラベル	構成設定	説明
[ID]	Id	スレッドプールの ID を入力します。
[サイズ]	サイズ	スレッドプールのサイズを入力します。
[追加]	該当なし	[追加] をクリックして、新しいスレッドプールを追加します。
[更新]	該当なし	[更新] をクリックして、選択したスレッドプールを更新します。
[削除]	該当なし	[削除] をクリックして、選択したスレッドプールを削除します。
タスク: 次のワーカー タスクをスレッド プールに割り当てます。		
[ジョブ アーカイブのタスク]	WorkerTasks	ジョブが完了すると、ジョブをアーカイブします。
[ジョブ評価のタスク]	WorkerTasks	ジョブを評価します。
[例外作成のタスク]	WorkerTasks	例外ジョブを発生させます。
[ジョブ作成のタスク]	WorkerTasks	受信したドキュメントに関連付けられたジョブを作成します。
[バッチキャプチャ のタスク]	WorkerTasks	タイムアウトしたキャプチャ アクティビティ セッションをアンロードします。
[項目削除のタスク]	WorkerTasks	保持ポリシーに基づいて項目を削除します。
[状態アクション処理のタスク]	WorkerTasks	ジョブ状態変更のアクションを処理します。
[ジョブ 強制終了のタスク]	WorkerTasks	ジョブが完了したらジョブを強制終了します。
[キャプチャ バイナリ削除のタスク]	WorkerTasks	キャプチャ バイナリ データを削除します。
[システム取り込みのタスク]	WorkerTasks	アクティブなインポート 接続/ソースで指定されたドキュメントを取り込みます。
[一時停止アクティブ化のタスク]	WorkerTasks	一時停止の理由に基づいて一時停止されたジョブをアクティブ化します。

設定の変更は `Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config` にのみ適用されます。

ライセンス

ラベル	構成設定	説明
[プライマリ]	ServerID	設定値が 1 の場合は、プライマリ ライセンス サーバーです。

ラベル	構成設定	説明
[バックアップ]	ServerID	設定値が 2 の場合は、バックアップライセンス サーバーです。

キャプチャ ストレージ

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス マルチテナント Web/アプリ一体型サーバーのインストール タイプのみです。

TotalAgility のインストール時、[キャプチャ ストレージ] タブに次のストレージ タイプが表示されます。

- [SQL Server]
- [SQL Server とファイル システム]
- [Windows Azure Blob ストレージ]
- [Amazon S3]

TotalAgility をインストールした後はキャプチャ データのストレージ タイプを変更できないため、ストレージ タイプは読み取り専用モードで表示されます。接続文字列とキーのみを変更できます。デフォルトでは、キャプチャ データは SQL Server に保存されます。TotalAgility 7.11.0 へのアップグレード時には、デフォルトのストレージを Windows Azure、Amazon、または [SQL Server とファイル システム] ストレージ タイプに変更できます。ストレージ タイプを変更した後は、ストレージ タイプを元に戻したり、再び変更したりすることはできません。

TotalAgility のインストール時、必要に応じて、ストレージ タイプについて、次のクラウド アカウント設定を変更できます。TotalAgility のアップグレード時には、クラウド アカウント設定を構成する必要があります。

i クラウド ストレージの認証情報を変更する前に、すべての TotalAgility サーバーですべての Kofax TotalAgility サービスを停止し、変更後にサービスを再起動する必要があります。

クラウド アカウント設定については、次の表を参照してください。

ラベル	構成設定	説明
[SQL Server]	ServerID	デフォルトでは、キャプチャ データは SQL Server に保存されます。
[SQL Server とファイル システム]: 次の [ファイル ストレージ設定] を構成します。		
[キャプチャ バイナリを保存する SQL Server ファイル グループを選択します]	ServerID	ファイルグループを格納するファイル システム フォルダ。
[キャプチャ ストレージ ファイル サイズのしきい値 (キロバイト)]	ServerID	キロバイト単位のキャプチャ ストレージ ファイル サイズのしきい値。(デフォルト: 512)
[キャプチャ プロジェクトの最大 サイズ]	MaxCaptureProjectSize	MB 単位で許容されるキャプチャ プロジェクト サイズの最大サイズ。トレーニング セットの場合、500 から 10240 の間である必要があります。

ラベル	構成設定	説明
[長いデータベース トランザクション タイムアウト 間隔]	LongDatabaseTransactionTime outInSeconds	大規模なプロジェクト トレーニング セットを保存するために、より長い トランザクション タイムアウトを設定できるようにするキー。
[Windows Azure Blob ストレージ]		
[アカウント 接続文字列]	ServerID	Blob ストレージ サービスに接続するための接続文字列。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i キャプチャ データ ストレージのコンテナ名は、インストーラによって自動的に作成されます。</p> </div>
[Amazon S3]		
[アクセス キー]	ServerID	クラウド ストレージのアクセス キー。
[秘密キー]	ServerID	クラウド ストレージのシークレット アクセス キー。
[領域]	ServerID	S3 リージョン システム名。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i キャプチャ データ ストレージのバケット名は、インストーラによって自動的に作成されます。</p> </div>
[バケット名]	ServerID	クラウド ストレージ ユニット。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i バケット名は変更できません。</p> </div>

統合サービスのバインディング

このタブを利用できるのは、Docker コンテナ タイプが完全インストール、Web とアプリ、アプリの場合に対応する Docker モードのみです。

デフォルトでは、このタブのすべての設定が選択されているわけではありません。このタブを使用して、次の統合サービス バインディングに対して SSL を有効にします。

ラベル	構成設定	説明
[Exchange 通知サービス]	BasicHttpBinding_Exchange NotificationService	Exchange 通知サービスに対して SSL を有効にします。
[SharePoint コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_SharePoint CommunicatorService	SharePoint コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[TRIM コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_TRIM CommunicatorService	TRIM コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[Dynamics AX コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX CommunicatorService	DynamicsAx コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。

ラベル	構成設定	説明
[Dynamics AX 統合サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX IntegrationService	DynamicsAX 統合サービスに対して SSL を有効にします。
[Insight データ サービス]	BasicHttpBinding_InsightData サービス	Insight データ サービスに対して SSL を有効にします。

設定の変更は、TotalAgility Web.config に適用されます。

Transformation Server のみ

このセクションでは、Transformation Server を独立してインストールする場合の構成設定について説明します。

一般

このタブには、TotalAgility によって使用される Transformation Server データベース構成が表示されません。

ラベル	構成設定	説明
[メイン]	MainDBConnectionString	TotalAgilityデータベース サーバーのメイン データベース接続文字列を指定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i データベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指名します。 これをすべてのデータベースに対して実行します。</p> </div>
[監査]	AuditDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーの監査データベース接続文字列を指定します。
[終了済みジョブ]	ArchiveDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのアーカイブデータベース接続文字列を指定します。
[ステージング]	ReportingStagingDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのレポート ステージング データベース接続文字列を指定します。
[データ センター]	TenantDBConnectionString	TotalAgilityデータベース サーバー向けのデータ センター データベース接続文字列を指定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i データベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指名します。 この設定を使用できるのは、マルチテナント展開のみです。</p> </div>

ラベル	構成設定	説明
[展開タイプ]	DeploymentType	<p>ライブや開発など、セットアップする環境のモードを指定します。</p> <p>i この設定を使用できるのは、マルチテナント展開のみです。</p>

Transformation Server

ラベル	構成設定	説明
[プール名]	PoolName	Transformation Server が処理する場合の元になるプールを指定します。
[スロットの最大数]	MaxProcessingSlotsNumber	<p>アイドル状態のバックグラウンド プロセスを除いて、同時に実行できる CPU 集約型のバックグラウンド プロセスの数を指定します。(デフォルト: 0)</p> <p>処理スロットの最大数は、次の式を使用して決定されます。</p> $(\text{int})\text{Math.Round}(\text{Environment.ProcessorCount} * 1.25)$
[アクティビティの順序]	TransformationServiceActivityOrder	<p>処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[予約済みスロットの数]	ReservedSlotsNumber	プッシュされた優先度の高いアクティビティ (同期呼び出しなど) 用に予約されている Transformation Server のスロットの数を入力します。
[TCP/IP ポート番号]	次のセクションの baseAddress のポート番号を参照します。system.serviceModel/services/service/host/baseAddresses	Transformation サービスのベースアドレスのポート番号を指定します。 Transformation Server のポート番号を入力します。
[アクティビティのタイムアウト間隔 (分単位)]	TakenActivitiesResetTimeoutInMinutes	アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されます。

ラベル	構成設定	説明
[ポーリング タイムアウト アクティビティのリセット間隔 (分単位)]	ResetActivityIntervalInMinutes	Transformation Server がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。
[マルチテナント展開]	IsMultitenantDeployment	展開がマルチテナントかオンプレミスかを示します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; background-color: #e6f2ff;"> <p>i 選択した場合、使用している展開のタイプと関連付けられたデータベースをマルチテナントとしてインストールする必要があります。</p> </div>
[オンライン ラーニングの有効化]	OnlineLearningExecutionEnabled	選択した場合、この Transformation Server インスタンスのオンライン ラーニング タスクの処理が有効になります。
[同期アクティビティの処理を有効化]	EnableSynchronousCalls	選択した場合、同期「プッシュ」呼び出しの処理が有効になります。
[同期アクティビティのみを処理]	SynchronousOnlyProcessing	選択した場合、Transformation Server は同期キャプチャプロセスにのみ使用され、自動アクティビティをポーリングしないように指定されます。

設定の変更は、Transformation Server\Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config にのみ適用されます。

リアルタイム Transformation サービス

このセクションでは、TotalAgility のインストール時にリアルタイム Transformation サービス モードを選択した場合の構成設定について説明します。

Transformation Server

ラベル	構成設定	説明
[プール名]	PoolName	Transformation Server が処理する元のプールを指定します。
[スロットの最大数]	MaxProcessingSlotsNumber	アイドル状態のバックグラウンドプロセスを除いて、同時に実行できる CPU 集約型のバックグラウンドプロセスの数を指定します。(デフォルト: 0) 処理スロットの最大数は、次の式を使用して決定されます。 $(int) \text{Math.Round}(\text{Environment.ProcessorCount} * 1.25)$

ラベル	構成設定	説明
[アクティビティの順序]	TransformationServiceActivityOrder	<p>処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[予約済みスロットの数]	ReservedSlotsNumber	<p>プッシュされた優先度の高いアクティビティ (同期呼び出しなど) 用に予約されている Transformation Server のスロットの数を入力します。</p>
[TCP/IP ポート番号]	次のセクションの baseAddress のポート番号を参照します。system.serviceModel/services/service/host/baseAddresses	<p>Transformation サービスのベースアドレスのポート番号を指定します。</p> <p>Transformation Server のポート番号を入力します。</p>
[オンライン ラーニングの有効化]	OnlineLearningExecutionEnabled	<p>選択した場合、この Transformation Server インスタンスのオンライン ラーニング タスクの処理が有効になります。</p>
[同期アクティビティの処理を有効化]	EnableSynchronousCalls	<p>選択した場合、同期「プッシュ」呼び出しの処理が有効になります。</p> <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i TotalAgility をリアルタイム Transformation サービス モードでインストールするように選択した場合、この設定は読み取り専用で表示されます。</p> </div>
[同期アクティビティのみを処理]	SynchronousOnlyProcessing	<p>選択した場合、Transformation Server は同期キャプチャプロセスにのみ使用され、自動アクティビティをポーリングしないように指定されます。</p> <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>i TotalAgility をリアルタイム Transformation サービス モードでインストールするように選択した場合、この設定は読み取り専用で表示されます。</p> </div>

設定の変更は、Kofax.CEBPM.CPUServer.ServiceHost.exe.config にのみ適用されます。

統合サーバー

このセクションでは、TotalAgility 統合サーバーの構成の設定について説明します。

Web

このタブは TotalAgility オンプレミス マルチテナント統合サーバー アプリケーション サーバー、Web サーバー、Web/アプリ型サーバーのインストール タイプに利用できます。

ラベル	構成設定	説明
[コア統合サービスの場所]	CoreIntegrationServicesLocation	コア統合サービスの場所を指定します。
[コア サービスの場所]	CoreServicesLocation	コア サービスの場所を指定します。  SSL を有効にしている場合は、HTTPS コア サービスの場所を入力します。
[オンライン ヘルプの URL]	OnlineHelpURL	TotalAgility オンライン ヘルプの場所を指定します。
[アンチ CSRF ターゲット ホスト名]	TargetHostName	Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲット名 (Web サーバーの FQDN) を指定します。この名前は、TotalAgility Web サーバーのホスト/ドメイン名である必要があります。  ホスト名は、ブラウザで指定されたものと同じホスト/ドメインである必要があります。
[アンチ CSRF ターゲット ポート番号]	TargetPortNo	Anti-CSRF トークンを検証するためのターゲットポート番号 (Web サイトのポート番号) を指定します。これは、TotalAgility サーバーのポート番号である必要があります。ここでポート番号を指定するのは、ブラウザの URL で必要な場合のみです。  ポートは、ブラウザの URL と同じポート番号が必要です。

ラベル	構成設定	説明
[Cookie にホスト プレフィックスを使用する]	UseHostPrefixforCookies	「Cookie のホスト プレフィックス」を有効にします。このブラウザ機能を使用すると、TotalAgility Cookie 名の前に "_HOST-" を付加して、Cookie のセキュリティを高めることができます。Cookie 名がこのフラグで始まる場合、サポート ブラウザの Cookie に対して追加のブラウザ ポリシーがトリガーされます。Host というプレフィックスがついた Cookie は、これが設定されている同じドメインからのみアクセスできます。つまり、サブドメインでは Cookie 値を上書きできなくなります。また、HTTPS サイトからのみ Cookie にアクセスできるようになります。これにより、攻撃者が安全ではない偽装サイトを使用してセキュアな Cookie を上書きした場合でも、Cookie が保護されます。

設定の変更は `Web.config` にのみ適用されます。

Core Worker

このタブを使用できるのは、TotalAgility オンプレミス マルチテナント アプリケーション サーバーと Web/アプリ型サーバーのインストール タイプのみです。

ラベル	構成設定	説明
[コア統合サービスの場所]	CoreIntegrationServicesLocation	コア統合サービスの場所を指定します。
[コア サービスの場所]	CoreServicesLocation	コア サービスの場所を指定します。  SSL を有効にしている場合は、HTTPS コア サービスの場所を入力します。
[自動アクティビティ スレッド プール サイズ]	CoreWorkerMaxAutoActivityThreadPoolSize	この設定は、自動アクティビティ スレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。
[ワーカー タスクのポーリング間隔]	CoreWorkerIntervalInSeconds	システムが期限内のメモリ内のワーカー タスクをチェックする頻度を指定します。
[ワーカー タスクのタイムアウト間隔]	CoreWorkerResetTaskIntervalInSeconds	システムがタイムアウトしたワーカー タスクをチェックする頻度を指定します。デフォルトでは、ワーカー タスクごとに割り当てられるタイムアウト間隔は 300 秒です。
[ポーリング タイムアウト アクティビティのリセット間隔]	CoreWorkerResetActivityIntervalInSeconds	Core Worker がタイムアウトしたアクティビティをチェックする頻度を指定します。

ラベル	構成設定	説明
[アクティビティのタイムアウト間隔]	CoreWorkerActivityTimeoutIntervalInMinutes	アクティビティがタイムアウトするまでの期間を定義します。アクティビティは、対応するタスクが実行されるときのみ解放されます。
[インポートする最大メッセージ/ドキュメント数]	MaximumNumberOfMessagesToImport	ドキュメントの取り込み用にインポートするドキュメントまたはメッセージの最大数を指定します。
[アクティビティの順序]	CoreWorkerActivityOrder	処理用にアクティビティが実行される順序を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • アクティビティの優先度 = 0 • アクティビティの期限 = 1 • アクティビティの優先度期限 = 2 • アクティビティの期限の優先度 = 3 • ジョブの優先度 = 4 • ジョブの期限 = 5 • ジョブの優先度期限 = 6 • ジョブの期限の優先度 = 7
[Import Connector 名]	ImportConnectorName	管理者は、Core Worker が使用するインポート接続を明示的に指定できます。(デフォルト: すべて) この設定は、複数の Core Worker が設定されている場合に便利です。
[パフォーマンス ログギングが有効]	PerformanceLoggingEnabled	ログ ファイルにログインするパフォーマンス カウンターを有効にします。 パフォーマンス監視カウンターの詳細については、次のガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 『Kofax TotalAgility 管理者ガイド』のパフォーマンス カウンターの使用方法に関するセクション。 • 『Kofax TotalAgility インストール ガイド』のパフォーマンス監視カウンターの追加に関するセクション。
[スレッド プール モニタリング間隔]	CoreWorkerThreadPoolMonitoringIntervalInSeconds	スレッド プールが内部スレッドを監視する頻度を定義します。現在、監視はスレッドのタイムアウトをチェックするために行われ、自動アクティビティタイプのスレッド プールにのみ適用されます。 デフォルト値は 60 です。
[マルチテナント パフォーマンス カウンタ]	PerformanceCountersMultitenanted	各テナントにマルチテナント パフォーマンス カウンター インスタンスを作成できるかどうかを指定します。
[自動アクティビティ プール ID]	AutoActivitiesPoolId	この設定は、自動アクティビティのスレッド プール ID を指定します。

ラベル	構成設定	説明
[自動アクティビティ プール名]	AutoActivitiesPoolName	この設定は、自動アクティビティのスレッドプール名を指定します。
[ジョブ スレッドプール サイズ]	CoreWorkerMaxJobThreadPoolSize	この設定は、ジョブ スレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。
[プロセス アクティビティ スレッドプール サイズ]	CoreWorkerMaxProcessActivitiesThreadPoolSize	この設定は、プロセス アクティビティ スレッドプールの最大サイズを指定します。スレッドプールのサイズがいっぱいの場合、Core Worker は、タスクを追加するスペースができるまで待機します。

設定の変更は `Agility.Server.Core.WorkerService.exe.config` および `CoreWorkerService\Agility.Server.Core.ExportService.exe.config` に適用されます。

ストリーミング

このタブは TotalAgility オンプレミス マルチテナント統合サーバー アプリケーション サーバー、Web サーバー、Web/アプリ体型サーバーのインストール タイプに利用できます。

ラベル	構成設定	説明
[ベース アドレス]	次のセクションの下の <code>baseAddress</code> を参照してください。 <code>system.serviceModel/services/service/host/baseAddresses。</code>	Streaming サービスのベース アドレスを次の形式で入力します。 <code>http(s)://<Server>:<Portnum></code> サーバーの FQDN とポート番号を指定します。

設定の変更は `Agility.Server.StreamingService.exe.config` にのみ適用されます。

統合サービスのバインディング

このタブを利用できるのは、Docker コンテナ タイプが完全インストール、Web とアプリ、アプリの場合に対応する Docker モードのみです。

デフォルトでは、このタブのすべての設定が選択されているわけではありません。このタブを使用し、次の統合サービスバインディングに対して SSL を有効にします。

ラベル	構成設定	説明
[Exchange 通知サービス]	BasicHttpBinding_Exchange NotificationService	Exchange 通知サービスに対して SSL を有効にします。
[SharePoint コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_SharePoint CommunicatorService	SharePoint コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[TRIM コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_TRIM CommunicatorService	TRIM コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。
[Dynamics AX コミュニケーター サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX CommunicatorService	DynamicsAx コミュニケーター サービスに対して SSL を有効にします。

ラベル	構成設定	説明
[Dynamics AX 統合サービス]	BasicHttpBinding_DynamicsAX IntegrationService	DynamicsAx 統合サービスに対して SSL を有効にします。
[Insight データ サービス]	BasicHttpBinding_InsightData サービス	Insight データ サービスに対して SSL を有効にします。

設定の変更は、TotalAgility Web.config に適用されます。

レポート サーバー

このセクションでは、レポート サーバーで使用されるデータベース構成について説明します。

ラベル	構成設定	説明
[メイン]	MainDBConnectionString	TotalAgilityデータベース サーバーのメイン データベース接続文字列を指定します。 <div style="border: 1px solid #add8e6; padding: 5px;"> <p>i データベースを変更するには、データベース名を変更し、データベースが存在するサーバーを指名します。これをすべてのデータベースに対して実行します。</p> </div>
[監査]	AuditDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーの監査データベース接続文字列を指定します。
[終了済みジョブ]	ArchiveDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのアーカイブデータベース接続文字列を指定します。
[データ レイヤー]	メイン データベースのテーブル SERVER_DATA から読み取ります。	TotalAgility データベース サーバーのデータ レイヤー データベース接続文字列を指定します。
[レポート]	ReportingMainDBConnectionString	TotalAgility データベース サーバーのレポート データベース接続文字列を指定します。
[ステージング]	ReportingStagingDBConnectionSt ring	TotalAgility データベース サーバーのレポート ステージング データベース接続文字列を指定します。

設定の変更は Kofax.CEBPM.Reporting.TAService.exe にのみ適用されます。